

俳人協会 青森県支部

会 報

発行所 俳人協会青森県支部
 〒030-0843
 青森市浜田玉川189の39
 浜田しげる方
 ☎ 017-735-3031

新年紙上俳句大会

初糶の子牛だれにも尾を振りぬ

くどうひろこさん(板柳)が大賞



くどうひろこ さん

ろこさん(薫風)の作品「初糶の子牛だれにも尾を振りぬ」が十五点を獲得し大賞に選ばれた。準大賞は八戸市の中村静江さん(たかんな)の作品「堂堂と割れてゐるなり鏡餅」の句で十二点だった。

俳人協会青森県支部の令和元年度新年紙上俳句大会は一月十日、投句締切で行われ、昨年並みの三百九十句の応募があった。二十二人の選者が選句した結果、板柳町のくどうひ

ろこさん(薫風)の作品「初糶の子牛だれにも尾を振りぬ」が十五点を獲得し大賞に選ばれた。準大賞は八戸市の中村静江さん(たかんな)の作品「堂堂と割れてゐるなり鏡餅」の句で十二点だった。

堂堂と割れてゐるなり鏡餅

準大賞は中村静江さん(八戸)

高点句(11点—7点)

どんど爆ぜ薙刀ほどの火搔棒 柳引 麗子
 新しき命待ちゐる初曆 佃 正子
 臥す妻に窓一枚の初明り 西川 無行
 母といふ大きな磁石明の春 大川 恵子
 鉞の楔しつかと山始 蒲田 吟竜
 獅子頭はずし眼鏡の曇り拭く 畑中 月穂
 さみどりの湯気より掬ふ七日粥 佐藤 幸子
 初硯老いの背筋を伸ばしけり 築館 秋水

獅子舞に囃まれ六根よみがへる 柳引 麗子
 初泣の光となりて嬰生まる くどうひろこ
 寝正月いま深海にゐるごとし 坂本 吟遊
 元日や一日だけの大家族 若松 一男
 大旦那の所につねの山 佐藤 幸子
 ああ言へばかう言ふ夫と七日粥 千葉 禮子
 佛飯の湯気をゆたかに年迎ふ 西村 セイ
 初硯小さき遺墨に父の癪 小野 寿子
 離陸機の車輪を畳む初御空 栗山 朗子
 縫初やスポンの裾の千鳥掛け 境 陽子

今年の俳句大会予定

- 4月26日(日) 青森県観桜俳句大会(弘前市文化センター)
- 5月16日(土) 青い森俳句大会(青森市文化会館)
- 5月23日(土) 第27回増田手古奈記念大鰐温泉俳句大会(大鰐町中央公民館)
- 5月24日(日) 青森県俳句懇話会総会・俳句大会(青森市文化会館)
- 6月6日(土) 青森市民俳句大会(青森市文化会館)
- 6月21日(日) 令和2年度俳人協会総会・俳句大会(青森国際ホテル)
- 7月5日(日) 第3回つがる俳句大会(つがる市木造)
- 7月26日(日) 第48回俳句懇話会十和田大会(十和田市)
- 9月6日(日) 第31回俳人協会東北俳句大会・青森大会(青森国際ホテル)
- 9月13日(日) 青森県俳句大会(青森市東奥日報新町ビル)
- 10月3日(土) 県下深浦俳句大会(深浦町)
- 11月1日(日) 第40回弘前俳句大会(弘前文化センター)
- 11月8日(日) 青森市民俳句大会(青森市文化会館)

三位以下の結果は次の通り。
 (同点の場合は天位、地位、人位、秀逸の数による)

- ③ 柳引麗子11点④ 佃正子11点⑤ 西川無行10点⑥ 大川恵子9点⑦ 蒲田吟竜9点⑧ 畑中月穂9点⑨ 佐藤幸子8点⑩ 築館秋水8点⑪ 柳引麗子7点⑫ くどうひろこ7点⑬ 坂本吟遊7点⑭ 若松一男7点⑮ 佐藤幸子7点⑯ 千葉禮子7点⑰ 西村セイ7点⑱ 小野寿子7点⑲ 栗山朗子7点⑳ 境陽子7点

木附沢麦青 選

天位 注連飾る厩舎は扉全開に
地位 堂堂と割れてゐるなり鏡餅
秀逸 車椅子にもささやかな注連飾
読はじむ兜太戦後の俳日記
添書に今年限りと賀状来る
終活の一行記し賀状来る
三日かな入港を待つ貨物船
罽割れは神の念力鏡餅
人日や猫の居場所の定まりぬ
寝正月いま深海にゐるごとし
雪搔きの隣とかはす御慶かな
初晴や海峡の色引き締まる
ああ言へばかう言ふ夫と七日粥
屠蘇祝ふ今日のみ断酒許されて
注連飾る夫婦杉こそ村自慢
香の物そろへ包丁始かな
初漁の舳先ゆつたり旋回す
長子来て裾りを正す鏡餅

菅原 郁子
中村 静江
加藤健一郎
草野 力丸
永倉 みつ
諏訪 正子
吉田千嘉子
小笠原聖子
高野万津江
坂本 吟遊
中島 五郎
成田 政美
千葉 禮子
瀧内 政子
森下 睦子
境 陽子
小野寺和子
工藤 義人

木村 秋湖 選

天位 恵方かな真つ正面に岩木山
地位 元朝の沖に日矢射す舟溜
秀逸 佛飯の湯気をゆたかに年迎ふ
初風を統ぶる灯台波の綺羅
浄め塩を舳先に綱に漁始
羽ばたきて翔つ白鳥の初御空
茶筌ふる音にも淑氣満つるかな
出航の銅鑼高らかに四方の春
車椅子にもささやかな注連飾
母といふ大きな磁石明の春
初雀遊ばせをりし御大仏
初茜弓張り浜は風港
三日かな入港を待つ貨物船
福寿草手話のふたりの日溜りに
初硯老いの背筋を伸ばしけり
鳶の輪のまぶしく高く七日かな
初漁の舳先ゆつたり旋回す
日めくりの第一頁初日射す

秋谷美智子
和田たかし
西村 セイ
川口 巖溪
栗山 朗子
中島 五郎
金田一子
中村しおん
加藤健一郎
大川 恵子
外川 幸子
木村あさ子
吉田千嘉子
白戸 星央
築館 秋水
橋本 惇子
小野寺和子
郡川 宏一

小野 寿子 選

天位 雪らしき雪も踏まずや去年今年
地位 鏡餅食ふて昭和の生き残り
秀逸 ききなれし父の拍手大旦那
佛飯の湯気をゆたかに年迎ふ
絵馬もなき田舎天神初詣
臥す母にみたたび読みたる初みくじ
初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
神仏への取り分ける節料理
深々と母の一礼初厨
臥す妻に窓一枚の初明り
ああ言へばかう言ふ夫と七日粥
客去りて写真の母と年の酒
初髪に母の形見の珊瑚玉
孫に習ふ飛の筆順や初御空
父よりの一言ありて雑煮食ふ
初景色日矢の溶け込む日本海
八十のわれに恋あり初みくじ
微笑める遺影の妻へ御慶かな

河村 仁美
瀧内 政子
相馬 禮子
西村 セイ
赤坂 良美
中澤 玲子
京谷 みき
寺岡 洋子
西川 無行
千葉 禮子
森下 睦子
小野寺和子
立花 夕海
小笠原八千代
工藤 邦子
内藤 ミヤ
木村 秋湖

土井 三乙 選

天位 元日や一日だけの大家族
地位 堂堂と割れてゐるなり鏡餅
秀逸 普段着の主治医も参るどんど焼
下北によき水のあり松の内
初糶りの蝟箱を出て歩き出す
臥す母にみたたび読みたる初みくじ
宝船まくらの下でがさごそす
どんど爆ぜ雑刀ほどの火掻棒
新しき命待ちある初曆
格子戸の奥に声ある初稽古
泣きべその子の書初の一母一字
昨夜会ひし母より届く年賀状
ああ言へばかう言ふ夫と七日粥
音読の大活字本読始
初孫を爺に抱かせ初詣
初夢の父は片膝立て謡ふ
孫に習ふ飛の筆順や初御空
笑つてと云はれて笑ふ春着の子

若松 一男
中村 静江
斎藤ひでを
雪田 一石
小笠原聖子
中澤 玲子
今田とみを
榎引 麗子
佃 正子
野村 英利
小杉 郁子
畠山 容子
千葉 禮子
藤田 明子
菊池 嘉任
橋本 惇子
立花 夕海
中村しおん

草野 力丸 選

天位 寝正月いま深海にゐるごとし
地位 ああ言へばかう言ふ夫と七日粥
秀逸 波寄するやうに餅搗唄の来る
少子化の世には棲めずと嫁が君
初鏡眉をきりりと描きけり
包丁始切れ味をみる指の腹
甘噛みて穂先をほぐす筆始
孕み野馬まなこを閉ざし初日浴ぶ
ふくよかな志功の天女淑氣満つ
獅子頭はずし眼鏡の曇り拭く
添書に今年限りと賀状来る
恋愛成就八十路の吾の初みくじ
堂堂と割れてゐるなり鏡餅
初硯老いの背筋を伸ばしけり
獅子舞に噛まれ六根よみがへる
遺句集のあとがきからの読初
初景色日矢の溶け込む日本海
初風の海猫反転の刻を待つ

坂本 吟遊
千葉 禮子
菅原 郁子
高橋千夜湖
小川 澄子
萬年 和子
齊藤 君子
榎 せい子
畑中 月穂
永倉 みつ
南 美智子
中村 静江
築館 秋水
榎引 麗子
清水 雪江
工藤 邦子
吉田 敏夫

岩村多加雄 選

天位 さみどりの湯気より掬ふ七日粥
地位 初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
秀逸 初硯小さき遺墨に父の癖
尾鰭断つ俎始の出刃の刃え
ふくよかな志功の天女淑氣満つ
甘噛みて穂先をほぐす筆始
齋粥たつぷりそへる海の塩
初糶りの蝟箱を出て歩き出す
ねんねこの子の指さす方を恵方とす
鍼の楔しつかと山始
それがねえと始まる電話女正月
正月や横座に孫の寝転んで
ああ言へばかう言ふ夫と七日粥
縫初やズボンの裾の千鳥掛け
お白石持ち新宮の初詣
大鍋の最後の煮染五日かな
山の湯の客みな親し三ヶ日
借景は蝦夷の山並初御空

佐藤 幸子
くどうひろこ
小野 寿子
和田たかし
榎 せい子
萬年 和子
江口 みよ
小笠原聖子
岩田 秀夫
蒲田 吟竜
沼館 佐子
木田多聞天
千葉 禮子
境 陽子
鈴木 莉花
京谷 みき
畑中とほる
和田たかし

奥田 卓司 選

天位 夜勤終へ白衣姿にさす初日
地位 音消えし父の部屋にも新曆
人位 福笑含み笑ひの目が笑ふ
秀逸 猿は子を懐深く初日影

佳作 臥す妻に窓一枚の初明り
客去りて写真の母と年の酒
姉妹して母の清拭初湯とす
どんど爆ぜ難刀ほどの火搔棒
目の奥に決意ありけり初稽古
見せぬやう比ぶる兄弟お年玉
元日や一日だけの大家族
まづ息を吐いて始まる歌留多会
元朝や音高らかにシエバーを
孕み野馬まなこを閉ざし初日浴ぶ
初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
山の湯の客みな親し三ヶ日
溢れ出る音に至福の初湯かな
微笑める遺影の妻へ御慶かな

成田 政美
伊藤 芳博
高野 万津江
杉山 畝女
西川 無行
森下 睦子
宮川 暢子
榎引 麗子
加藤健一郎
藤田 正子
若松 一男
村田加寿子
今田とみを
齊藤 君子
くどうひろこ
畑中とほる
小泉 静子
木村 秋湖

小野寺和子 選

天位 初泣の光となりて嬰生まる
地位 初詣一ト日一句を誓ひけり
人位 鏡割る傘寿に余力てふ力
秀逸 少子化の世には棲めずと嫁が君
産み月の子と海よりの初日浴ぶ
初風呂に老いのふた文字流しけり
門松や一人息子は子沢山
借景は蝦夷の山並初御空
母といふ大きな磁石明の春
初鶏や競ひ鳴きする字の村
船の名は妻の名多し初日影
福寿草手話のふたりの日溜りに
絵馬もなき田舎天神初詣
どんど爆ぜ難刀ほどの火搔棒
初手水少しく呻く水の星
長子来て裾りを正す鏡餅
明日あることのしあはせ福寿草
曙の牛舎にどかと飾日

くどうひろこ
布施 協一
中村しおん
松橋喜世美
佃 正子
西村 セイ
中谷 恭子
和田たかし
大川 恵子
小田桐素人
萬年 和子
白戸 星央
赤坂 良美
榎引 麗子
須郷 権太
工藤 義人
中谷 恭子
浜田しげる

栗山 朗子 選

天位 初雀遊ばせをりし御大仏
地位 泣きべその子の書初の「母」一字
人位 鉞の楔しつかと山始
秀逸 初釜や笑顔褒めらる娘のえくぼ
生涯の今が一番去年今年
ふくよかな志功の天女淑気満つ
宝船まくらの下でがさごそす
恙がなく生きて生かされ去年今年
注連飾る厩舎は扉全開に
初日掲ぐ露座大仏の大き御手
米寿こそ幸多かれと初詣
深々と母の一礼初厨
恙無く金婚に酌む年の酒
孕み野馬まなこを閉ざし初日浴ぶ
初泣の光となりて嬰生まる
初晴の鳶悠々と空均す
墨の香をたつぷり吸うて筆始
微笑める遺影の妻へ御慶かな

外川 幸子
小杉 郁子
蒲田 吟竜
飯田 知克
松田 幸子
榎 せい子
今田とみを
工藤 邦子
笹原 郁子
高橋千夜湖
田村 芳陽
寺岡 洋子
工藤 祐子
齊藤 君子
くどうひろこ
榎 せい子
中谷 恭子
木村 秋湖

小泉 静子 選

天位 一睡にそぞろ立ちたる初厨
地位 長子来て裾りを正す鏡餅
人位 大望を打ち明けし子へお年玉
秀逸 少子化の世には棲めずと嫁が君
離陸機の車輪を畳む初御空
恵方へと緩き八十路の登りかな
転げ出る小鈴搔き寄すどんど焚き
さみどりの湯気より掬ふ七日粥
人日や猫の居場所の定まりぬ
お降りや嬰の寝息の寧からむ
初東風や国旗はためく大鳥居
元日や一日だけの大家族
塩抜き菜これぞ津軽の年用意
臥す妻に窓一枚の初明り
罅割れは神の念力鏡餅
絵馬もなき田舎天神初詣
初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
初晴の鳶悠々と空均す

河村 仁美
工藤 義人
大川 恵子
松橋喜世美
栗山 朗子
小杉 郁子
佐々木雅翔
佐藤 幸子
高野万津江
栗山 朗子
寺岡 洋子
若松 一男
松宮 梗子
西川 無行
小笠原聖子
赤坂 良美
くどうひろこ
榎 せい子

今 順子 選

天位 初漁へ舫ひ解かれし船勇む
地位 どんど爆ぜ難刀ほどの火搔棒
人位 雪に棲み雪を宥めて年迎ふ
秀逸 佛飯の湯気をゆたかに年迎ふ
獅子頭はずし眼鏡の曇り拭く
初春やお堂にまつ赤な絵蠟燭
大旦常の所につねの山
初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
約束に少し寄り道福寿草
手水舎のひかり楽しげ初雀
堂堂と割れてゐるなり鏡餅
縫初やズボンの裾の千鳥掛け
四日はやひとりの卵かけご飯
引きあはず襖の松や年変る
女正月気兼ねなく家あけにけり
初風や蝦夷の山々むらさきに
曙の牛舎にどかと飾日
釜臥の裾野むつ湾漁始

金田一子
榎引 麗子
島田よう子
西村 セイ
畑中 月穂
後藤 瑞江
佐藤 幸子
くどうひろこ
村田加寿子
白戸 星央
中村 静江
境 陽子
くどうひろこ
河村 仁美
京谷 みき
畑中とほる
浜田しげる
和田たかし

斎藤ひでを 選

天位 鉞の楔しつかと山始
地位 獅子舞に噛まれ六根よみがへる
人位 新しき命待ちある初曆
秀逸 浄め塩を舐先に網に漁始
獅子頭はずし眼鏡の曇り拭く
初春の杜に響けり神の鈴
元旦や朱塗りの膳に膝折りぬ
墨の香をたつぷり吸うて筆始
目の奥に決意ありけり初稽古
恵方かな真つ正面に岩木山
初晴や海峡の色引き締まる
初硯老いの背筋を伸ばしけり
咬まれたる痛さもうれし獅子頭
御酒そそぎ父の一礼山始
お降りや人気なき日の善知鳥沼
老松の生気みなぎる初景色
孕み野馬まなこを閉ざし初日浴ぶ
微笑める遺影の妻へ御慶かな

蒲田 吟竜
榎引 麗子
佃 正子
栗山 朗子
畑中 月穂
西川 無行
和田 宗三
中谷 恭子
加藤健一郎
秋谷美智子
成田 政美
築館 秋水
佐藤 幸子
鈴木 莉花
櫻田 英二
三ヶ森青雲
齊藤 君子
木村 秋湖

高橋 千恵 選

天位 母といふ大きな磁石明の春
地位 もう少し歩を伸ばさうか若菜摘み
人位 明日あることのしあはせ福寿草
秀逸 目の奥に決意ありけり初稽古
読はじむ兜太戦後の俳日記
新しき命待ちあまる初稽古

佳作 初挽のこけしの笑まひもらひけり
酒好きの飲まぬ訳あり大旦
ふくよかな志功の天女淑氣満つ
初漁へ舳ひ解かれし船勇む
ちゆんと来てちゆんちゆん弾み初雀
縫初やズボンの裾の千鳥掛け
出航の銅鑼高らかに四方の春
恙がなく生きて生かされ去年今年
女正月気兼ねなく家あけにけり
元日やスタートラインに立つ心地
返すべき本の終章読初に
添書に心のなごむ賀状かな

大川 恵子
野村 英利
中谷 恭子
加藤健一郎
草野 力丸
佃 正子
竹浪 幸子
菊池 嘉任
榊 せい子
金田 一子
土井 三乙
境 陽子
中村しおん
工藤 邦子
京谷 みき
田端 千鼓
小野 寿子
木村 秋湖

高橋 千夜湖 選

天位 どんぞ爆ぜ雑刀ほどの火搔棒
地位 盲導犬の尾のゆったりと初詣
人位 臥す妻に窓一枚の初明り
秀逸 手水舎のひかり楽しげ初雀
遺句集のあとがきからの読初
名にし負う軍馬の里の初神楽
一月の灯台一の字に立てり
県境は世界遺産や初電車
猿は子を懐深く初日影
寝正月いま深海にあるごとし
母といふ大きな磁石明の春
門前の和菓子の老舗福寿草
堂々と割れてあるなり鏡餅
戦争を知らない子等へどんだの火
海底のトンネルを行く旅はじめ
山の湯の客みな親し三ヶ日
初硯小さき遺墨に父の癖
初日の出張りては弛む舳ひ綱

佳作

櫛引 麗子
牧 ひろし
西川 無行
白戸 星央
清水 雪江
鈴木志美恵
畑中とほる
秋谷美智子
杉山 畝女
坂本 吟遊
大川 恵子
江口 みよ
中村 静江
中村しおん
高橋 千恵
畑中とほる
小野 寿子
鈴木ゆき子

対馬 迪女 選

天位 臥す妻に窓一枚の初明り
地位 初硯老いの背筋を伸ばしけり
人位 蟹小屋の板戸に小さき注連飾り
秀逸 普段着の主治医も参るどんど焼
恋歌を取り損ねたるかるたかな
獅子頭はずし眼鏡の曇り拭く
初漁の舳先ゆつたり旋回す
初晴の鳶悠々と空均す
車椅子にもささやかな注連飾
新年や二度目のオリンピック来る
元日や一日だけの大家族
まづ息を吐いて始まる歌留多会
新しき命待ちあまる初稽古
香の物そろへ包丁始かな
門松や築百年の座敷蔵
初風や蝦夷の山々むらさきに
初硯小さき遺墨に父の癖
返すべき本の終章読初に

佳作

西川 無行
築館 秋水
吉田千嘉子
斎藤ひでを
小川 澄子
畑中 月穂
小野寺和子
榊 せい子
加藤健一郎
布施 協一
若松 一男
村田加寿子
佃 正子
境 陽子
稲場 暁子
畑中とほる
小野 寿子
小野 寿子

土田 紫翠 選

天位 母といふ大きな磁石明の春
地位 新しき命待ちあまる初稽古
人位 盛り上がる初恋のこと女正月
秀逸 鉞の楔しっかと山始
格子戸の奥に声ある初稽古
縫初やズボンの裾の千鳥掛け
初髪に母の形見の珊瑚玉
戦争を知らない子等へどんだの火
初詣一ト日一句を誓ひけり
読はじむ兜太戦後の俳日記
裂帛の気合すみずみ初稽古
初春や南部鉄瓶たぎる音
ホームステイの生徒見送る四日なり
年始め白き手帳の封を切る
初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
一月の灯台一の字に立てり
書初会肩のちからを抜けといふ
筆始いろは母より教はりし

佳作

大川 恵子
佃 正子
千葉 禮子
蒲田 吟竜
野村 英利
境 陽子
小野寺和子
中村しおん
布施 協一
草野 力丸
吉田千嘉子
千葉 禮子
黒丸 久子
児玉美喜子
くどうひろこ
畑中とほる
小野 寿子
小野 寿子

西川 無行 選

天位 残身の影揺るぎ無し弓始
地位 初泣の光となりて嬰生まる
人位 墨の香をたつぷり吸うて筆始
秀逸 寝正月いま深海にあるごとし
蟹小屋の板戸に小さき注連飾り
初硯老いの背筋を伸ばしけり
少年の誰にも負けぬ喧嘩ごま
初硯小さき遺墨に父の癖
元朝の沖に日矢射す舟溜
茜さす山河一望初詣
格子戸の奥に声ある初稽古
厨よりカレーの匂ひ四日かな
うぶすなの何処を行くも恵方かな
初孫を爺に抱かせ初詣
初髪に母の形見の珊瑚玉
初声の一矢となりて闘ひらく
さみどりの湯気より掬ふ七日粥
出航の銅鑼高らかに四方の春

佳作

田端 千鼓
くどうひろこ
中谷 恭子
坂本 吟遊
吉田千嘉子
築館 秋水
齊藤 君子
小野 寿子
和田たかし
外川 幸子
野村 英利
永倉 みつ
小笠原聖子
菊池 嘉任
小野寺和子
市川 明子
佐藤 幸子
中村しおん

野村 英利 選

天位 齊打つ朝の厨の浮き立てり
地位 大旦常の所につねの山
人位 初景色日矢の溶け込む日本海
秀逸 海峡に初日躍らす怒濤かな
離陸機の車輪を畳む初御空
裂帛の気合すみずみ初稽古
縫初やズボンの裾の千鳥掛け
身に慣れし納屋の匂ひの淑気かな
どんだの火漢の貌を走りけり
真さらなる表札染めし初菫
夜勤終へ白衣姿にさす初日
樞や年に一度の大家族
鶏鳴の久し帰郷に初菫
門前の和菓子の老舗福寿草
目標を記し果敢に初げいこ
出航の銅鑼高らかに四方の春
少年の誰にも負けぬ喧嘩ごま
二日はや雲の流れに遅速あり

佳作

瀬川 文香
佐藤 幸子
工藤 邦子
川口 巖溪
栗山 朗子
吉田千嘉子
境 陽子
鈴木志美恵
松田 幸子
樋口 京子
成田 政美
後藤 朋子
白戸 星央
江口 みよ
戸川美重子
中村しおん
齊藤 君子
工藤 義人

畑中とほる 選

天位 門松や一人息子は子沢山
 地位 菩提寺の閻魔に拜す大旦
 人位 海峡に初日躍らす怒濤かな
 秀逸 直筆の賀状に籠る温かさ
 齒科医より届いた賀状虫歯の絵
 離陸機の車輪を畳む初御空
 獅子頭はずし眼鏡の曇り拭く
 初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
 車椅子にもささやかな注連飾
 初日掲ぐ露座大仏の大き御手
 恵方かな真つ正面に岩木山
 初東風や国旗はためく大鳥居
 獅子舞に頭差し出す喜寿の夫
 初糶や海峡鮪の海の色
 鶯の輪のまぶしく高く七日かな
 咬まれたる痛さもうれし獅子頭
 海底のトンネルを行く旅はじめ
 借景は蝦夷の山並初御空

中谷 恭子
 大川 恵子
 川口 巖溪
 蒲田 吟竜
 松橋喜世美
 栗山 朗子
 畑中 月穂
 くどうひろこ
 加藤健一郎
 高橋千夜湖
 秋谷美智子
 寺岡 洋子
 永倉 みつ
 藤田 明子
 橋本 惇子
 佐藤 幸子
 高橋 千恵
 和田たかし

三ヶ森青雲 選

天位 獅子舞に囃まれ六根よみがへる
 地位 羽ばたきて翔つ白鳥の初御空
 人位 堂室と割れてゐるなり鏡餅
 秀逸 初鏡眉をきりりと描きけり
 齋粥たつぷりそへる海の塩
 香の物そろへ包丁始かな
 咬まれたる痛さもうれし獅子頭
 玄関の顔となりたる鏡餅
 普段着の主治医も参るどんど焼
 海峡に初日躍らす怒濤かな
 生涯の今が一番去年今年
 茶筌ふる音にも淑氣満つるかな
 宇宙へと飛んでみたきよ初御空
 初漁の舳先ゆつたり旋回す
 大旦常の所につねの山
 初晴の鳶悠々と空均す
 明日あることのしあはせ福寿草
 どの顔も令和となりし初詣

榊引 麗子
 中島 五郎
 中村 静江
 高橋千夜湖
 江口 みよ
 境 陽子
 佐藤 幸子
 土田 紫翠
 齋藤ひでを
 川口 巖溪
 松田 幸子
 金田 一子
 中村 静江
 小野寺和子
 佐藤 幸子
 榊 せい子
 中谷 恭子
 成田 秀継

田端さんと笹原さん入選

俳人協会俳句大賞

俳人協会の「俳句大賞」の選考会が昨年十月、俳句文学館で行われ、本県からは田端千鼓さんと笹原郁子さんの句が入選した。投句数は六千五百五句だった。

【伊藤伊那男入選】

灯を点けてどれも眠たき雛の目 田端 千鼓

【徳田千鶴子入選】

先陣のねぶたが闇の切り開く 笹原 郁子

雪田さんと野村さんが準大賞

白神山地全国俳句大会

白神山地世界遺産登録記念第二十五回全国俳句大会

の結果が昨年十二月に発表され、支部会員の雪田一石さんと野村英利さんが準大賞に選ばれた。投句数は六百四十句だった。

なお、入賞作品の上位十二句は十二湖地内にある茶室「十二湖庵」に一年間掲示する。

支部会員の結果は次の通り。

【準大賞・俳人協会会長賞／青柳志解樹選天位】

白神に今日も来ている漆掻き 雪田 一石

【準大賞・日本伝統俳句協会会長賞／辻桃子選天位】

岩魚焼くこそって胡坐組み直す 野村 英利

【秀逸／草野力丸選地位】

白神の空を余さず星月夜 飯田 知克

【佳作／武藤鉦二選人位】

白神の雨つぶひかる青胡桃 川口 巖溪

【佳作／辻桃子選人位】

滴りや獣の道に獣の毛 森下 睦子

吉田千嘉子 選

天位 初風呂に老いのふた文字流しけり
 地位 初糶の子牛だれにも尾を振りぬ
 人位 盛り上がる初恋のこと女正月
 秀逸 見せぬやう比ぶる兄弟お年玉
 まづ息を吐いて始まる歌留多会
 もう少し歩を伸ばさうか若菜摘み
 客去りて写真の母と年の酒
 さみどりの湯気より掬ふ七日粥
 目の奥に決意ありけり初稽古
 猿は子を懐深く初日影
 ほどほどに金箔入りの年の酒
 名水をさぶさぶ使ひ初手水
 元日や一日だけの大家族
 約束に少し寄り道福寿草
 産み月の子と海よりの初日浴
 雪掻きの隣とかはす御慶かな
 四日はやひとり卵かけご飯
 書初会肩のちからを抜けといふ

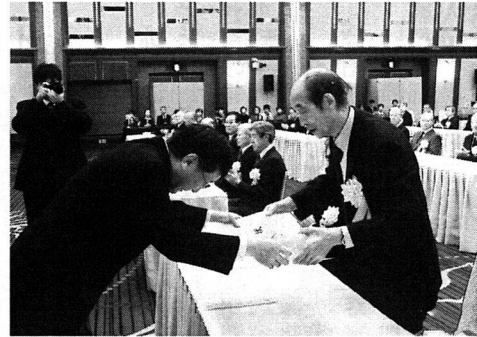
西村 セイ
 くどうひろこ
 千葉 禮子
 藤田 正子
 村田加寿子
 野村 英利
 森下 睦子
 佐藤 幸子
 加藤健一郎
 杉山 敏女
 田村 芳陽
 坂本 吟遊
 若松 一男
 村田加寿子
 佃 正子
 中島 五郎
 くどうひろこ
 小野 寿子

吉田 敏夫 選

天位 初鴉五重塔を朗らかに
 地位 下北によき水のあり松の内
 人位 読初は新約聖書ヨハネ伝
 秀逸 赴任地より英字包みの初荷かな
 どんどの火漢の貌を走りけり
 御慶先づ現れたるはあの雀
 書初の硯の山河光り合ふ
 神小さきものに宿りぬ初みくじ
 離陸機の車輪を畳む初御空
 新しき命待ちある初曆
 蟹小屋の板戸に小さき注連飾り
 音読の活字本読始
 御酒そそぎ父の一礼山始
 大旦常の所につねの山
 屠蘇祝ふ相も変らぬ二人をり
 笑つてと云はれて笑ふ春着の子
 一月の灯台一の字に立てり
 八十のわれに恋あり初みくじ

畠山 容子
 雪田 一石
 須郷 権太
 栗山 朗子
 松田 幸子
 村山 いう
 稲場 暁子
 くどうひろこ
 栗山 朗子
 佃 正子
 吉田千嘉子
 藤田 明子
 鈴木 莉花
 佐藤 幸子
 石崎 志亥
 中村しおん
 畑中とほる
 内藤 ミヤ

木附沢顧問が県褒賞受賞



県支部顧問で「青嶺」代表の木附沢麦青さんが昨年十一月、青森市のホテル青森で青森県褒賞を受賞した。

授賞理由は「多年俳句関係団体の要職にあつて俳句の普及と後進の指導育成に努めるなど文化の

知事から県褒章を授与される木附沢顧問

ふるって投句を！

9月6日 東北大会

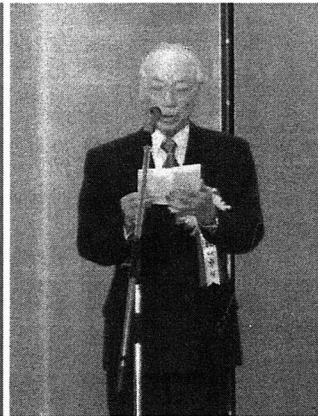
5年ぶり青森で

第三十一回俳人協会東北俳句大会・青森大会が九月六日、青森市の国際ホテルで開かれる。今瀬剛一俳人協会副会長が記念講演をするほか、本部から当日選者として岩田由美同幹事、事前投句選者は小坏健水同評議員、仲村青彦同理事、坂内佳禰同評議員が務める。

詳しい大会要項、投句用紙は三月下旬に発送する予定だが、当季雑詠の締め切りは五月三十一日。一組千円。何組でも投句できる。

発展に貢献した功績がまことに顕著である」と評価された。

奥田さんに八戸市文化賞 小野寺さんは芸術文化褒賞



八戸市の2019年度文化賞に奥田卓司さん(たかんな)が選ばれた
〓写真右。また、八戸市文化協会の芸術文化褒賞を小野寺和子さん(同)が受賞した
〓写真左。



〓八戸市文化賞
〓奥田さんは支部幹事。長年にわたる、俳句の研鑽を積み、俳誌「たかな」の編集長の

支部総会は6月21日

令和二年度の支部総会・俳句大会は六月二十一日、青森市の青森国際ホテルで開かれる。

本部からの講師は横澤放川評議員。大会では、九月の東北大会・青森大会の役割分担など運営方法などを話し合う。

多くの会員の総会参加、大会への投句を期待している。また、会員以外へも積極的に投句を呼び掛けることにしている。

要職にあり、第十六回青森県俳句賞を受賞、現在は俳句講座の講師、県内各地の俳句大会の選者を務めるなど俳句文化の振興発展に貢献していることなどが認められた。奥田さんは「皆さんのご指導があつてこそこの賞と感謝している」と語っている。

〓八戸市芸術文化褒賞〓小野寺さんは支部幹事。俳句の研鑽に精進し青森県俳句大会で入賞、また、青森県俳句懇話会会長賞を受賞するなど、俳句文化振興に貢献したことが認められた。小野寺さんは「皆さんのおかげで受賞できた。感謝している。これからもしっかり勉強して励みますので、ご指導をお願いしたい」と喜びを語っていた。

〓訂正 会報108号の2頁目、石田かつら選特選の句「賽銭のことりと呑みし堂の秋」は郡川宏一さんの句でした。

編集後記

◇今回の大会で、二十位以内に同じ三人が入賞した。これまで二人というのはあったが、三人は初めてである。それぞれに季語がしっかり効いている。日頃の研鑽の賜物だと思う。一方で、一歩及ばず、次点となった六人の人が八人もいた。それだけ接戦であった。次回の大会では是非頑張ってくださいと思う。

◇個人的なことでは恐縮だが、歳時記の季節区分の「冬」の三カ月の中に「新年」が含まれていることが気になって仕方がない。恐らく旧暦への理解が足りないせいだと思いつつも、一歩進めて歳時記と旧暦の関係性から目を逸らしてはいけない、という俳句詠みへの戒めなのだと捉えている。それは「歳時記とは何者か」という理解にも繋がる、と思うのだが…

(亥)